

クラス NO	514	担当教員	山上 俊彦
テーマ	人口減少と社会保障について考える		
著書・論文 研究課題等	著書・論文： 「労働組合組織率低下と賃金設定」日本福祉大学経済論集 2007年 「労働市場の不均衡と構造的失業」日本福祉大学経済論集 2007年 「日本の雇用調整と実質賃金の伸縮性」国民経済 2003年 「出産・育児と女子就業との両立可能性について」季刊・社会保障研究 1999年 「大都市高齢サラリーマン OB の就業行動」日本労働研究雑誌 1996年 研究課題等：労働市場における制度・慣習の経済分析 人口問題の経済分析（経済が人口に与える影響・人口が経済に与える影響）		

ゼミ概要
<p>① 内容・方法</p> <p>日本の出生率（年間に生まれる子供数）は、1970年頃から低下し続けている。その一方で平均寿命が伸びたため、高齢化が進んでいる。そのため、日本はかつてない速度で高齢化が進んで、高齢社会を迎えることとなった。さらに、2005年頃からは出生率低下の影響を受けて、遂に人口減少社会に入ったと言われている。今後、高齢者が増加することが予想され、社会福祉を含めた社会保障の重要性がますます高まる。こうした状況にもかかわらず、日本は社会保障を支える若年層の減少により、十分な社会保障制度を維持できないとも言われている。</p> <p>出生率はなぜ低下しているのか、人口減少と高齢化が社会保障制度にどのような影響を与えるのかを考えてみたい。</p> <p>② 進め方</p> <p>ゼミでは、これらの問題から具体的なテーマを設定して、共同で資料を用意し、全員で議論する。</p>

使用テキスト
加藤久和（2004）「人口経済学」（日本経済新聞社）

担当教員からのメッセージ
<p>読書する習慣を身に付けて下さい。専門書のみでなく、教養書や新書、文庫にも優れた書籍があります。また、毎日、新聞の政治、経済欄に目を通すことが必要です。</p>